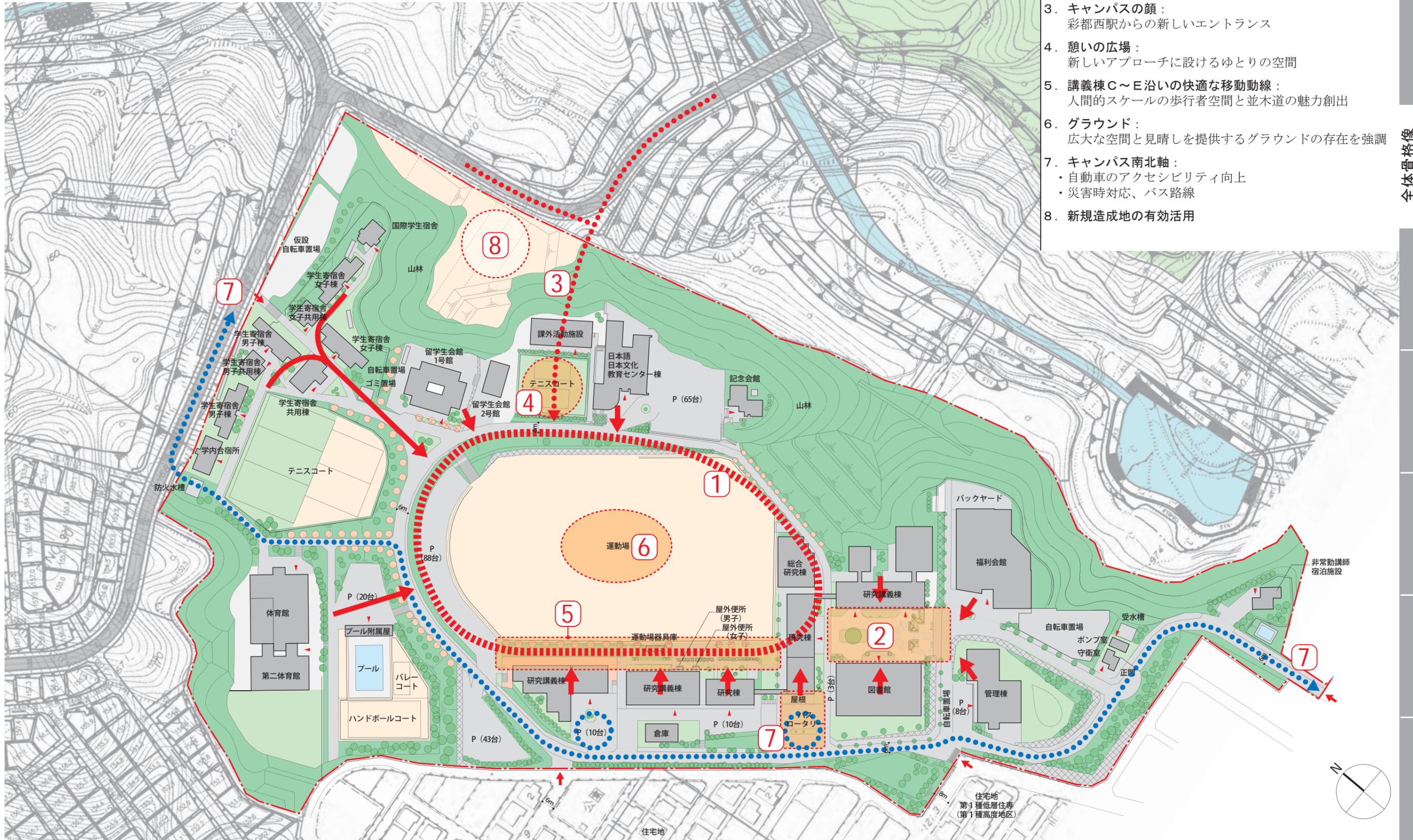


3章 将来の全体空間骨格像

3-1. 将来の全体空間骨格像

2章の調査結果を元にして、キャンパスがもつ潜在的なポテンシャルを最大限に活かしながら現状の課題を補正してゆくために、キャンパスの骨格となる全体空間のビジョンを図の通り明確にしておく。



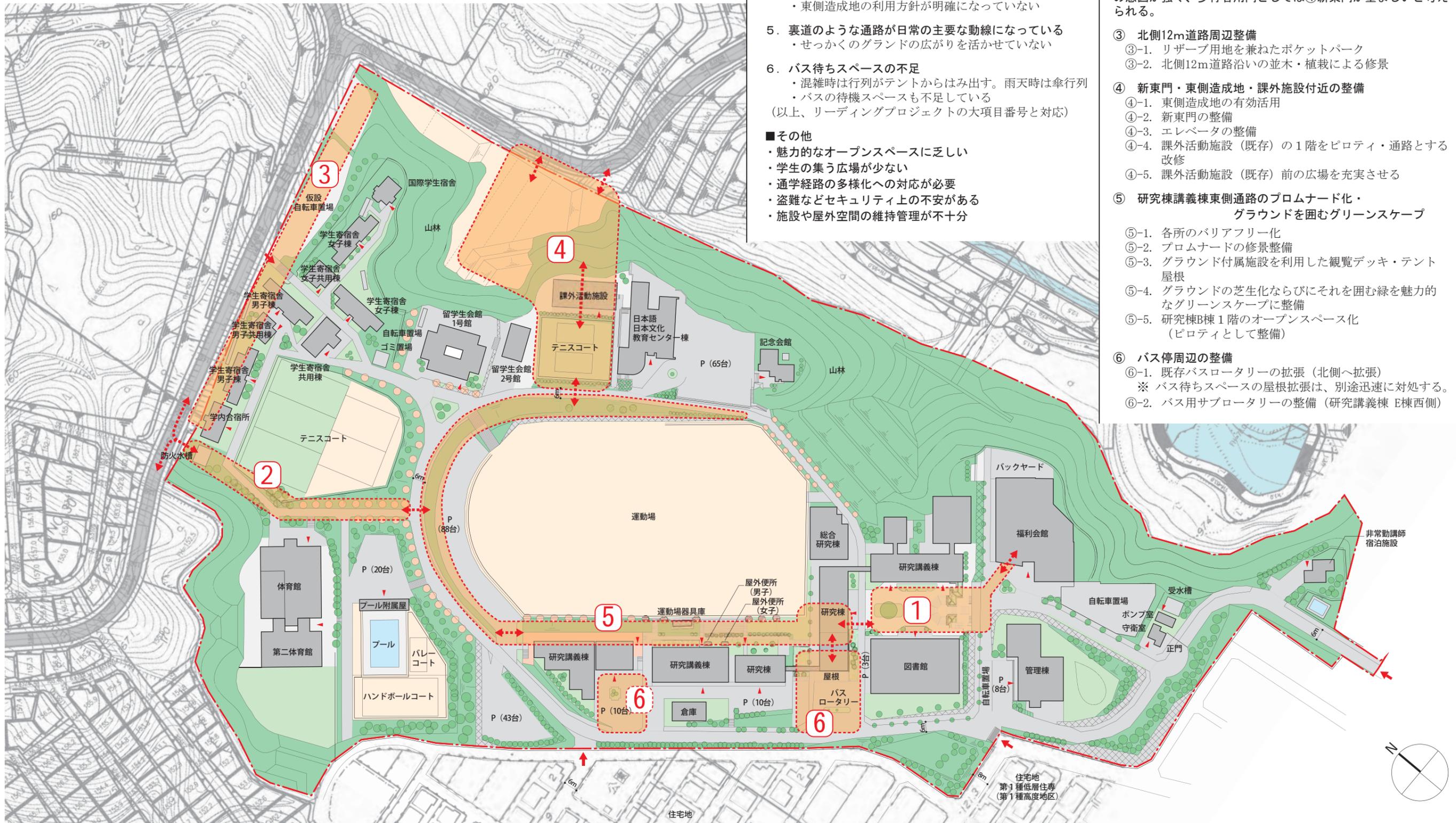
1. 交流軸
本キャンパスの特長の一つであるグラウンドを中心とした周回路は、魅力的な回遊動線として、かつイメージの核としてキャンパスをひとつに結びつける役割をはたす。これを「キャンパスループ」と名付ける。
2. 交流広場：
校舎に囲まれたキャンパスのイメージ中心
3. キャンパスの顔：
彩都西駅からの新しいエントランス
4. 憩いの広場：
新しいアプローチに設けるゆとりの空間
5. 講義棟C～E沿いの快適な移動動線：
人間的スケールの歩行者空間と並木道の魅力創出
6. グラウンド：
広大な空間と見晴しを提供するグラウンドの存在を強調
7. キャンパス南北軸：
・自動車のアクセシビリティ向上
・災害時対応、バス路線
8. 新規造成地の有効活用

4章 リーディングプロジェクト

4-1. リーディングプロジェクトの設定と全体配置

大阪大学キャンパスマスタープランにおいて、リーディングプロジェクトとは、オープンスペースや門、あるいは主要な街路といった重要な共用空間整備を、優先度の高い計画対象として全学的に位置づけることにより、魅力的なキャンパスの実現を図る手法である。

箕面キャンパスにおいては、2章の伸ばすべき個性と問題点の分析、およびこれらから導かれた3章の骨格像を元に、この骨格像を実現するものとして以下の6項目のリーディングプロジェクトを提案するものである。



現状問題点の分析（2章で得られた問題点まとめ再掲）

1. 日常の主要動線に急な階段がある（通称：墓石階段）
 2. 車両入構口が南側の1ヶ所しかない
 - ・災害時車両入構、およびバス転回の問題
 3. 北門（現況）周辺の整備方針が中途半端
 - ・バリアフリー上の問題がある。大学の顔として貧相
 - ・砂利敷きの駐輪場（暫定利用）はタイヤを取られ危険
 - ・寮のプライバシー確保の上で問題がある
 4. 北門から彩都西駅への動線が遠回り
 - ・彩都西駅や西部中央公園との動線つながりが悪い
 - ・東側造成地の利用方針が明確になっていない
 5. 裏道のような通路が日常の主要な動線になっている
 - ・せっかくのグラウンドの広がりを活かせていない
 6. バス待ちスペースの不足
 - ・混雑時は行列がテントからはみ出す。雨天時は傘行列
 - ・バスの待機スペースも不足している
- （以上、リーディングプロジェクトの大項目番号と対応）

■その他

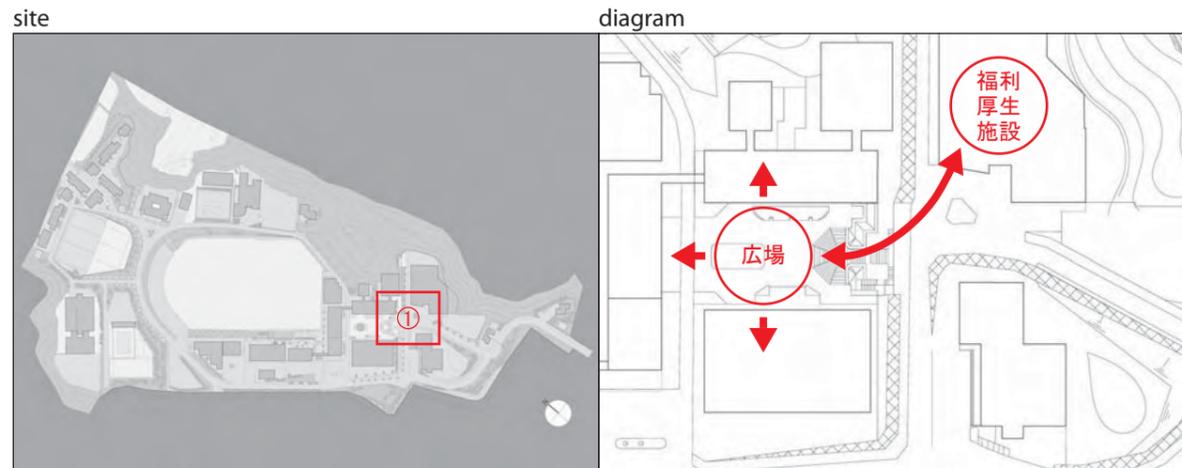
- ・魅力的なオープンスペースに乏しい
- ・学生の集う広場が少ない
- ・通学経路の多様化への対応が必要
- ・盗難などセキュリティ上の不安がある
- ・施設や屋外空間の維持管理が不十分

リーディングプロジェクト

- ① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化
 - ①-1. ブリッジの設置
 - ①-2. エレベータの設置
- ② 新北門の整備
 - ②-1. 新北門の整備
 - ②-2. 道路の拡幅、歩道の設置
 - ②-3. 防火水槽の移設（または埋設）

なお既存北門はバリアフリー上の問題があるので寮周辺へのアクセス用として限定的に用いる考え。また新北門は車両入構の意図が強く、歩行者用門としては④新東門が望ましいと考えられる。
- ③ 北側12m道路周辺整備
 - ③-1. リザーブ用地を兼ねたポケットパーク
 - ③-2. 北側12m道路沿いの並木・植栽による修景
- ④ 新東門・東側造成地・課外施設付近の整備
 - ④-1. 東側造成地の有効活用
 - ④-2. 新東門の整備
 - ④-3. エレベータの整備
 - ④-4. 課外活動施設（既存）の1階をピロティ・通路とする改修
 - ④-5. 課外活動施設（既存）前の広場を充実させる
- ⑤ 研究棟講義棟東側通路のブロムナード化・グラウンドを囲むグリーンスケープ
 - ⑤-1. 各所のバリアフリー化
 - ⑤-2. ブロムナードの修景整備
 - ⑤-3. グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・テント屋根
 - ⑤-4. グラウンドの芝生化ならびにそれを囲む緑を魅力的なグリーンスケープに整備
 - ⑤-5. 研究棟B棟1階のオープンスペース化（ピロティとして整備）
- ⑥ バス停周辺の整備
 - ⑥-1. 既存バスロータリーの拡張（北側へ拡張）
 - ※ バス待ちスペースの屋根拡張は、別途迅速に対処する。
 - ⑥-2. バス用サブロータリーの整備（研究講義棟 E棟西側）

◆ 4-1-①. 福利厚生棟周辺のバリアフリー化



◇ 現状の課題

① 通称「墓石階段」と呼ばれている扇状の大きな階段は、その象徴的な位置と形状から箕面キャンパスのシンボルとして広く認識されているが、高低差約5mの段差は移動の際には少なからず障害となっている。講義棟に囲まれた広場と学生食堂などが入る福利厚生施設の間という、キャンパス内で最も通行の多い経路に位置しているにもかかわらず、バリアフリー対策もなされておらず、風雨を避ける屋根もないため、現状はキャンパスの利便性を損ねていると言わざるを得ない。また動線上の課題が広場と福利厚生施設との心理的な距離を広げ、それぞれの場所のアクティビティを分断する結果にもなっている。

◇ 計画の方針

①ブリッジの設置

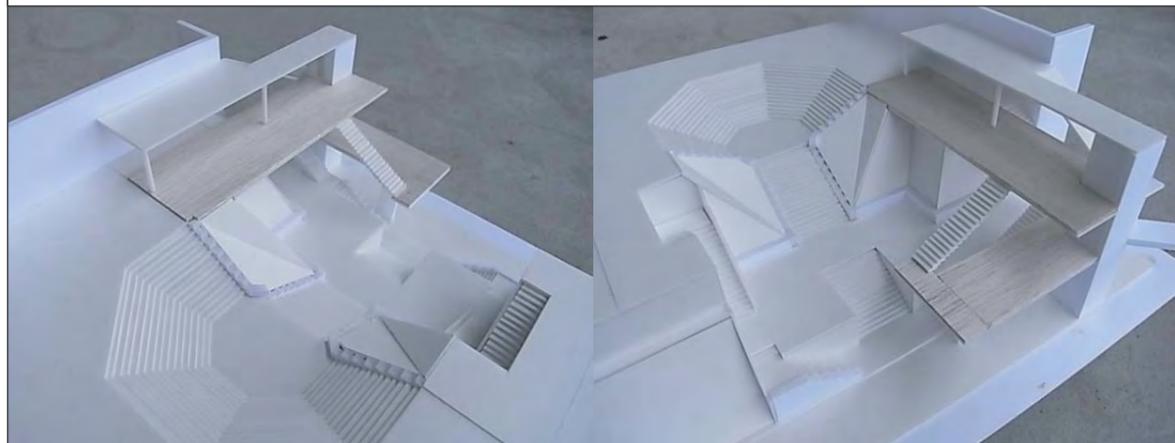
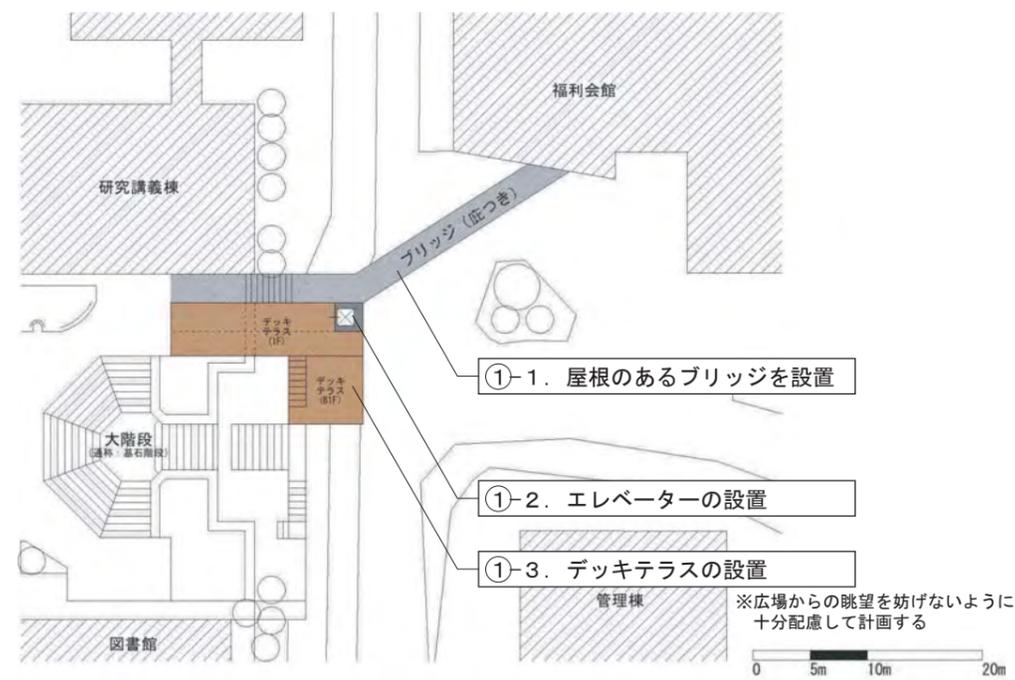
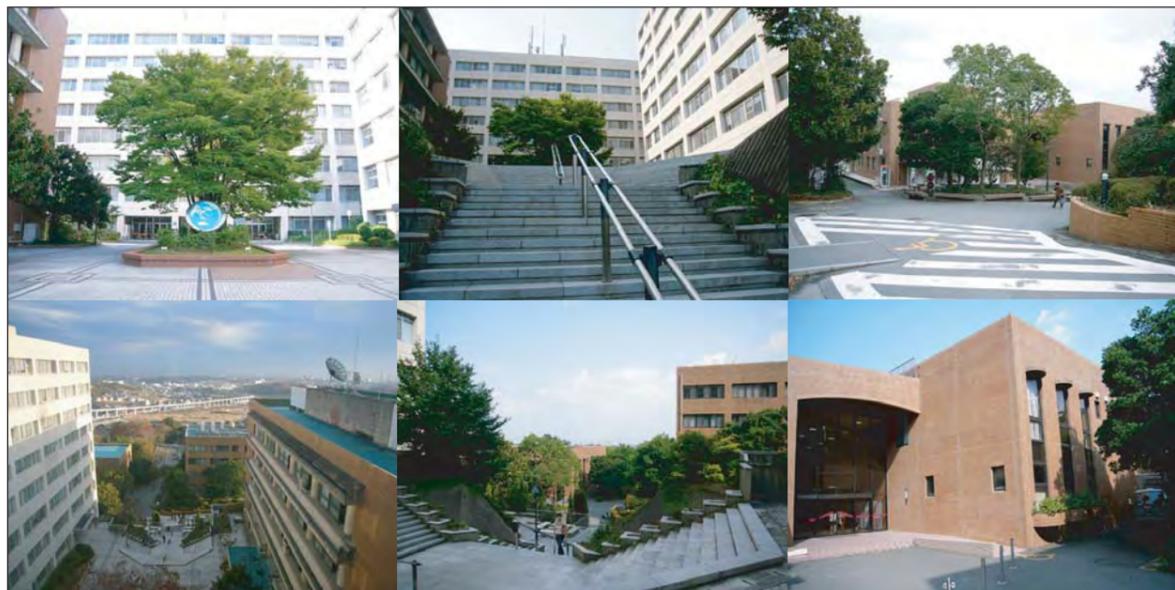
広場と福利厚生施設の2階部分をつなぐブリッジを設置し、高低差を減じて日常的な移動のストレスを軽減する。また屋根付きとすることで、雨天時にも雨に濡れずに講義棟と福利厚生施設との間を移動できるようにする。

・エレベーターの設置

大階段（通称：墓石階段）とブリッジのバリアフリー対策として、エレベーターを設置する。

・デッキテラスの設置

上記整備に付随してデッキテラスを設置することで、動線のみならず広場と福利厚生施設のアクティビティの一体化をはかる。



- ◆ 4-1-②. 新北門の整備
- ◆ 4-1-③. 北側12m道路周辺整備



◇ 現状の課題

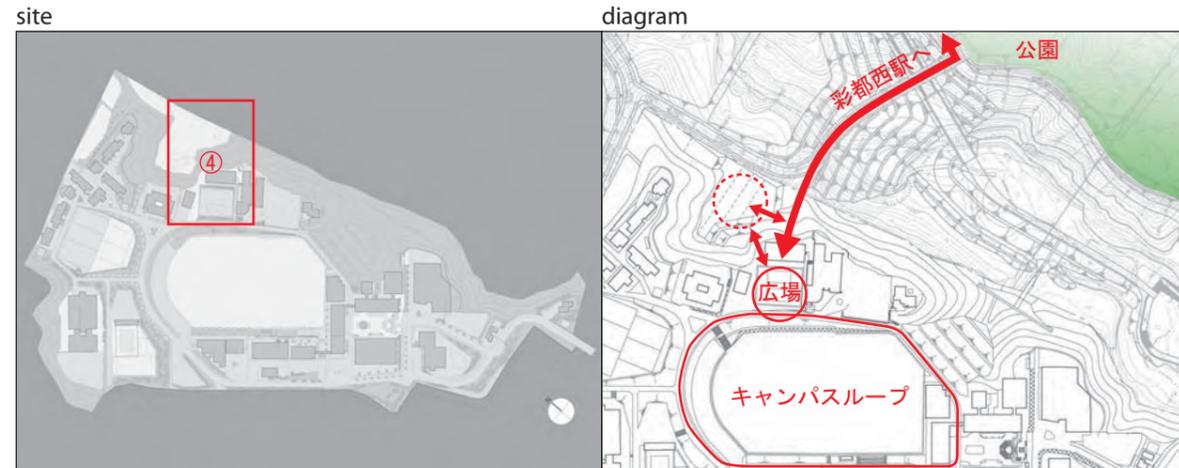
- ② 現在、キャンパスへの車両の入構はキャンパス南側の正門に限定されているが、彩都地区の開発と道路整備に伴い、今後は彩都方面など、キャンパス北側からの車両入構に対する要求の高まることが予想される。また、キャンパスへのアクセサビリティ向上の一環として、北側からのバスルートも検討されなければならない。更に災害などの緊急時を考慮すれば、車両入構口は2つ以上確保することが望ましい。
- ③ また、キャンパス北側では12m道路と集合住宅用地・戸建て分譲用地の工事が進み、完成すれば周辺地域は新しい居住エリアが形成され、道路を隔てた集合住宅とはレベル差があるものの、集合住宅開発者に対して分譲元のUR都市再生機構は1階の店舗化を想定している。これに対して現状のキャンパスの北側は砂利敷きの仮設駐輪場と寄宿舍の裏側が面しており、今後周辺の整備にあわせて良好なキャンパスエッジを形成し、近隣の環境向上に寄与することが求められる。

◇ 計画の方針

- ② 道路と最も高低差の少ない場所、現在防火水槽の設置されているエリアに新しく北門を整備し、バスと歩行者が通行可能なように、グラウンドを回る幹線道路へ至る道路を拡幅して歩道を整備し、これに伴い防火水槽は埋設型に更新するなどの移設を図る。
- ③ 現在仮設駐輪場となっている部分は近隣の快適性・景観の向上に寄与するポケットパークとして整備し、将来的な開発用地として確保する。また、寄宿舍に沿ったエリアは寄宿生のプライバシーに配慮しながら、街路樹などの植栽によって良好な景観を近隣に提供する。さらに大阪大学として、12m道路のデザインや分譲地の境界部分（法面が多い）のデザインについても積極的に発信をしていく必要がある。



◆ 4-1-④. 新東門・東側造成地・課外活動施設付近の整備



◇ 現状の課題

④ 現状では、彩都西駅からのアクセスには北門が利用されているが、彩都に対するキャンパスの顔としては規模が小さく、バリアフリー対策もなされていない上に、寄宿舍の間を歩いていくルートはプライバシー上も課題が多い。今後、箕面キャンパスとしては、新しく生まれる彩都に面した、新しい顔としてのゲート整備が必要である。その際、彩都の開発によってキャンパス東側の山林に生まれた造成地の有効な活用、西部中央公園とのネットワークなども考慮に入れて考えなければならない。

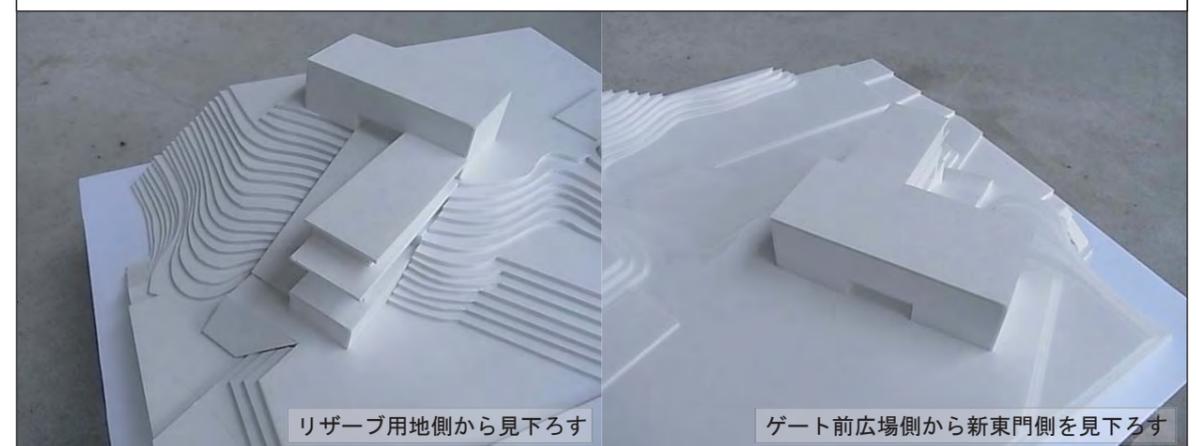
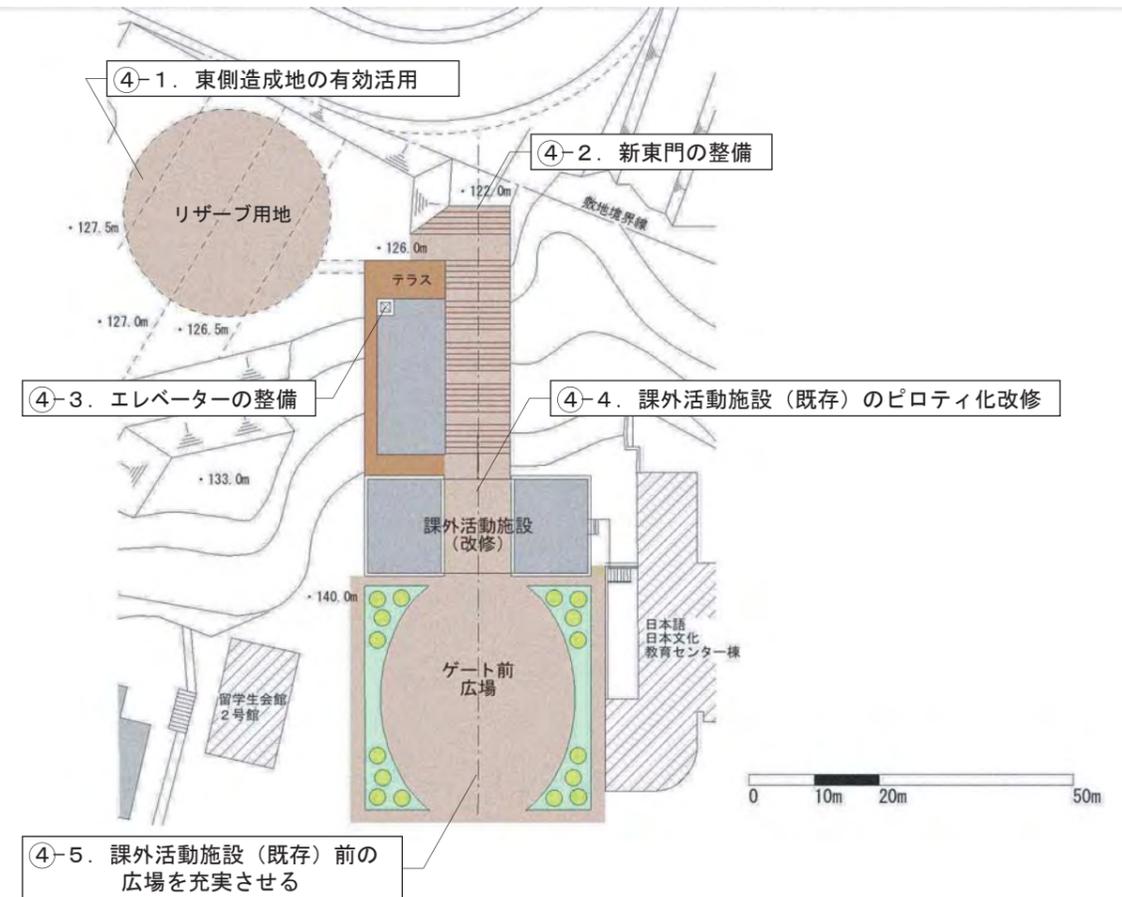
また、現状のキャンパスは学生が集い憩うことのできるオープンスペースが少なく、場所もキャンパス南側に偏っている。今後はグラウンドを一周する周回動線をキャンパスループとしてシンボル軸に位置づけ、全体にバランスよくオープンスペースを配置することが重要である。

◇ 計画の方針

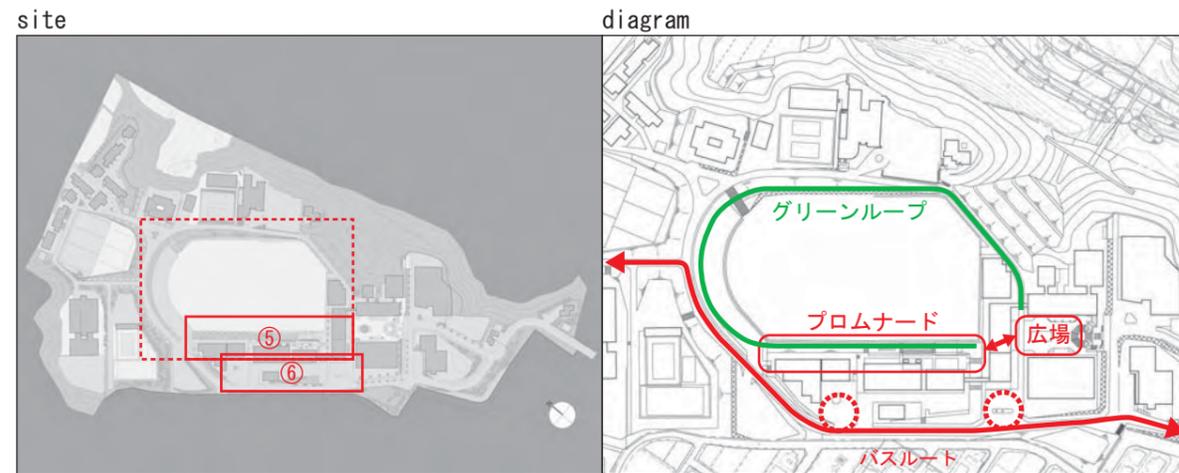
④ 彩都に面した箕面キャンパスの新しい顔として、緑豊かな山林の間を抜けてキャンパスへ至る新東門を計画する。場所は彩都西駅から西部中央公園に沿ってキャンパス東側へと至る道路からなめらかにつながる位置に設け、象徴的な階段とエレベーターによってキャンパスへアプローチし、課外活動施設とテニスコートを貫くかたちでキャンパスループへと接続させる。

このような配置とすることで西部中央公園とのネットワーク形成や造成地の将来的な有効活用を可能とし、現在テニスコートとなっているエリアを開放されたオープンスペースとして整備して広場を充実させ、周回動線との緩衝帯とする。また既存の課外活動施設については、一部をピロティとして改修するなど周辺整備と一体化した利活用を検討する。

さらに彩都西駅までのルートに関しても、空間を豊かにしながら防犯・安全を高める提案を可能な限り行っていくことが重要である。



- ◆ 4-1-⑤. 研究講義棟東側通路のプロムナード化・グラウンドを囲むグリーンスケープ
- ◆ 4-1-⑥. バス停周辺の整備



◇ 現状の課題

⑤ グラウンド西側と研究講義棟に挟まれたエリアは、校舎を背にして大きく広がる優れた景観を有した場所であるにもかかわらず、現状は植栽はあるもののどちらかといえば単なる機能上の通行路としか認識されていない。さらにこのエリアを通して体育館などへ移動する際、多くの学生や教職員は広場からB棟の裏口を抜けるルートを利用しており、頻繁に使われる主動線であるにもかかわらず魅力に欠けたものとなっている。

また、このエリアを含むキャンパスループ上には街路樹などが連続して緑のループを形成しており、魅力的な整備によってキャンパス全体をつなぐ緑のループとして、キャンパスの景観とイメージの向上に大きく寄与する潜在力を秘めているといえる。

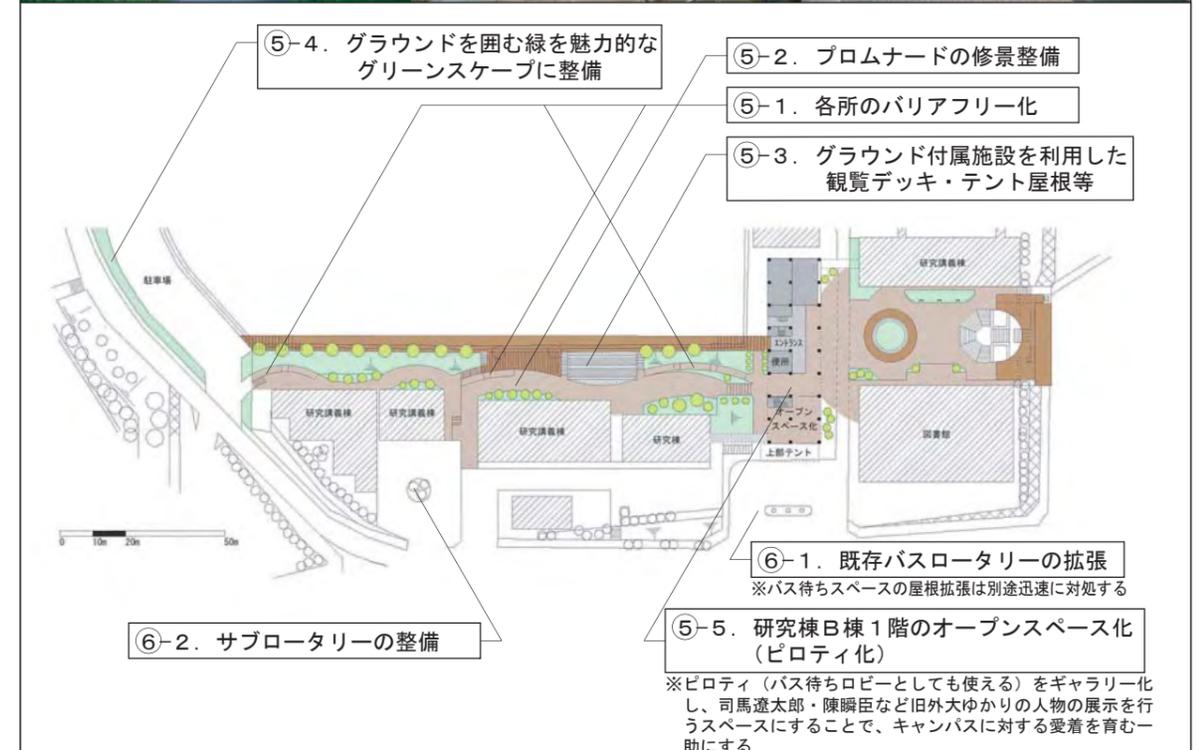
⑥ 今後バスの本数やルートの増加によって、バスの滞留スペースが不足すると共に新たな転回スペースが必要となることが予想される。

◇ 計画の方針

⑤ 段差を活かした回遊性のある散策路としてプロムナードを整備し、バリアフリー対策のスロープも一体的に計画して変化に富んだ景観を形成する。その際、既存のグラウンド付属施設なども計画に取り込み、屋上を観覧デッキとして活用するなどしてエリア一帯を総合的に整備していく。また、B棟1階部分を耐震性などに配慮しながら外壁を撤去してピロティとして改修し、広場やプロムナードと一体的なオープンスペースとして整備して、キャンパスループの連続性と全体のアメニティ向上をはかる。

さらに、グラウンドの芝生化を検討するほか、キャンパスループに沿った緑地帯は国際色豊かな樹種を採用するなど、キャンパスの個性に相応しいグリーンループとして一体的に整備を進めていく。

⑥ 既存バスロータリー部分はその範囲を拡張し、E棟前の車寄せ部分を転回スペースとなるサブロータリーとして整備する。



B棟1階をオープンスペース化

4-2. リーディングプロジェクトの優先順位の考え方

リーディングプロジェクトについては、その優先順位が問題となる。
表および下記の7つの評価項目にそれぞれ重み付けを与え、加重平均をとって合計点を比較してみた。

<評価項目>

- 1) バリアフリー（車椅子）対応
- 2) アクセサビリティ（人や車両通行の利便性）
- 3) キャンパス骨格への寄与（景観面を除く）
- 4) キャンパス外部への寄与
- 5) 空間の広がり・開放感（景観面を除く）
- 6) 景観（場所の重要性を含む）
- 7) コスト

まず重み付け方針として、1) を最優先にし、次いで7) コスト、2) アクセサビリティ、その他の順で重視した。

なお各項目は極力独立性を保つように評価・設定した。

ケーススタディ 1.

ワーキングメンバーの全体的な感覚による優先順位に近くなるように、また全体に極力素直な方針で各重み付けを与えた。その結果表の通り、感覚的な評価にほぼ近い重み付けと各項目評価を得た。

ケーススタディ 2.

キャンパスの骨格やキャンパス外部への寄与をもより重視するという観点から重み付けおよび順位づけをさぐった。コストの増大をやや許容する方向性で調整し、右表下部の結果を得た。

これらの検討の結果を以下に考察する。

A. 重要性の高い4項目

①福利会館周辺、②北門・新北門、④新東門、⑤研究棟東側、の4項目は評価項目の設定次第で順位が入れ替るが、どれも有力である。

B. 重要性がやや低い2項目

③北側道路沿い、⑥バス停周辺整備は、評価項目の重み付けを多少変えても、全体に占める順位はあまり高くない。

整備に至る最終的な優先順位づけは、そのときどきの財務状況その他に左右されると考えられ、また上記検討における若干の順位変動は有意ではないと思われるので、ここではあくまで参考として示しておく。

CaseStudy-1.

評価項目 (極力独立した項目とみなし、 相互影響が少ないように評価した)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	重み 合計	優先 順位	備考	参考: WGメンバーの全体的な 感覚による評価		
	バリア フリー (車いす 対応)	アクセサ ビリティ (通行 利便)	キャンパス 骨格への 寄与 (景観除く)	キャンパス 外部への 寄与	空間の 広がり ・開放感 (景観除く)	景観 (場所の 重要性 を含む)	コスト				必要性	順位	備考
評価項目の重み付け	A	B	C	E	C	D	A	3.01					
重み率:各項目の重み付けを全項目の重み合計で割ったもの	0.33	0.25	0.17	0.00	0.17	0.08	0.33	1.00					
リーディングプロジェクト案の項目	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	総合 点					
① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化・広場の整備・ブリッジの設置	平均A	平均A	平均C	平均C	平均D	平均C	B	0.70	2			○	⑤と関連有り
・LDP1-1 ブリッジの設置	B	A	C	C	D	C						○	2
・LDP1-2 エレベーターの設置	A	B	C	C	C	C						○	
② 北門・新北門周辺計画(駐輪場・バスルートとの関係性・問題点整理含む)	平均C	平均B	平均B	平均B	平均C	平均B	A	0.67	4			○	③と関連有り
・LDP2-1 新北門の整備	C	A	B	B	C	B						○	3
・LDP2-2 道路拡幅、歩道の設置(キャンパス内・新北門周辺)	B	B	A	B	B	B						○	
・LDP2-3 防火水槽の移設(埋設)	C	C	C	C	C	B						○	
③ 北側12m道路周辺整備	平均C	平均B	平均B	平均A	平均B	平均B	A	0.59	6			△	②と関連有り
・LDP3-1 リザーブ用地を兼ねたポケットパーク	C	B	B	A	B	B						△	5
・LDP3-2 北側、12m道路沿いの並木・植栽による修景	C	C	C	A	C	B						△	
④ 新東門付近の整備	平均C	平均B	平均B	平均B	平均B	平均B	E	0.68	3			○	④と関連有り
・LDP4-1 東側造成地の有効活用(駐輪場・駐車場・その他リザーブ用地)	C	C	B	B	B	C						○	4
・LDP4-2 新東門の整備	C	A	A	A	C	B						△	
・LDP4-3 エレベーターの整備	A	B	C	C	C	C						△	
・LDP4-4 広場を充実させる(現テニスコート部分)	C	B	A	C	B	B						x	
・LDP4-5 課外活動施設(既存)ピロティ化改修と新東口・新広場との連続性	C	B	B	C	B	B						△	
⑤ 研究講義棟東面(グラウンド西面)通路プロムナード化	平均B	平均B	平均C	平均C	平均B	平均B	B	0.71	1			○	①と関連有り
・LDP5-1 各所バリアフリー化	B	B	B	C	C	C						○	1
・LDP5-2 プロムナードの修景整備	C	C	B	C	B	A						△	
・LDP5-3 グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・上部テント屋根整備	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-4 研究棟B棟1階のオープンスペース化(ピロティとして整備)	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-5 図書館前広場から連続するアプローチの整備	B	A	C	C	A	B						x	
⑥ バス停周辺の整備(待ちスペースの屋根拡張は、別途早急に対応)	平均B	平均B	平均C	平均B	平均C	平均C	A	0.60	5			△	②③と関連有
・LDP6-1 既存バスロータリーの拡張(北側へ拡張)	B	B	C	B	C	C						△	6
・LDP6-2 サブロータリーの整備(研究講義棟E棟西側)	C	B	C	B	C	C						△	

CaseStudy-2. (「骨格への寄与」と「外部への寄与」を重視し、「コスト」をやや甘くした場合)

評価項目 (極力独立した項目とみなし、 相互影響が少ないように評価した)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	重み 合計	優先 順位	備考	参考: WGメンバーの全体的な 感覚による評価		
	バリア フリー (車いす 対応)	アクセサ ビリティ (通行 利便)	キャンパス 骨格への 寄与 (景観除く)	キャンパス 外部への 寄与	空間の 広がり ・開放感 (景観除く)	景観 (場所の 重要性 を含む)	コスト				必要性	順位	備考
評価項目の重み付け	A	B	B	C	C	D	C	3.75					
重み率:各項目の重み付けを全項目の重み合計で割ったもの	0.27	0.20	0.20	0.13	0.13	0.07	0.13	1.00					
リーディングプロジェクト案の項目	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	総合 点					
① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化・広場の整備・ブリッジの設置	平均A	平均A	平均C	平均C	平均D	平均C	B	0.66	4			○	⑤と関連有り
・LDP1-1 ブリッジの設置	B	A	C	C	D	C						○	2
・LDP1-2 エレベーターの設置	A	B	C	C	C	C						○	
② 北門・新北門周辺計画(駐輪場・バスルートとの関係性・問題点整理含む)	平均C	平均B	平均B	平均B	平均C	平均B	A	0.67	3			○	③と関連有り
・LDP2-1 新北門の整備	C	A	B	B	C	B						○	3
・LDP2-2 道路拡幅、歩道の設置	B	B	A	B	B	B						○	
・LDP2-3 防火水槽の移設(埋設)	C	C	C	C	C	B						○	
③ 北側12m道路周辺整備	平均C	平均B	平均B	平均A	平均B	平均B	A	0.65	5			△	②と関連有り
・LDP3-1 リザーブ用地を兼ねたポケットパーク	C	B	B	A	B	B						△	5
・LDP3-2 北側、12m道路沿いの並木・植栽による修景	C	C	C	A	C	B						△	
④ 新東門付近の整備	平均C	平均B	平均B	平均B	平均B	平均B	E	0.69	1			○	④と関連有り
・LDP4-1 東側造成地の有効活用(駐輪場・駐車場・その他リザーブ用地)	C	C	B	B	B	C						○	4
・LDP4-2 新東門の整備	C	A	A	A	C	B						△	
・LDP4-3 エレベーターの整備	A	B	C	C	C	C						△	
・LDP4-4 広場を充実させる(現テニスコート部分)	C	B	A	C	B	B						x	
・LDP4-5 課外活動施設(既存)ピロティ化改修と新東口・新広場との連続性	C	B	B	C	B	B						△	
⑤ 研究講義棟東面(グラウンド西面)通路プロムナード化	平均B	平均B	平均C	平均C	平均B	平均B	B	0.67	2			○	①と関連有り
・LDP5-1 各所バリアフリー化	B	B	B	C	C	C						○	1
・LDP5-2 プロムナードの修景整備	C	C	B	C	B	A						△	
・LDP5-3 グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・上部テント屋根整備	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-4 研究棟B棟1階のオープンスペース化(ピロティとして整備)	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-5 図書館前広場から連続するアプローチの整備	B	A	C	C	A	B						x	
⑥ バス停周辺の整備(待ちスペースの屋根拡張は、別途早急に対応)	平均B	平均B	平均C	平均B	平均C	平均C	A	0.62	6			△	②③と関連有
・LDP6-1 既存バスロータリーの拡張(北側へ拡張)	B	B	C	B	C	C						△	6
・LDP6-2 サブロータリーの整備(研究講義棟E棟西側)	C	B	C	B	C	C						△	